

ベルナール・ビュフェ

ベルナール・ビュフェ
美術館所蔵

「線」に
命を捧げた
孤高の画家

●休館日：月曜日、10/14(火)、11/4(火)、11/25(火)
※ただし10/13(月・祝)、11/3(月・祝)、11/24(月・振替休日)は開館
●開館時間：10時～17時(入館は16時30分まで)
●主催：公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社
●協力：ベルナール・ビュフェ美術館

【夜間特別開館】
開催日：2025年10月17日(金)、10月31日(金)、11月14日(金)
時間：10時～19時30分(入館は19時まで)

中之島 香雪美術館
Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

アトリエで産る男 1949 油彩／キャンバス ベルナール・ビュフェ美術館蔵

2025.10.4^[土] → 12.14^[日]

ベルナール・ビュフェ
A PAINTER WHO DEPICTED HIS SOUL INTO SCRATCHED LINE



BERNARD BUFFET

報道関係のお問い合わせ

「中之島香雪美術館」広報担当

TEL：06-6210-3766 FAX：06-6210-4190 Email：n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp

〒530-0005 大阪市北区中之島 3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4 階

ベルナール・ビュフェ BERNARD BUFFET

ベルナール・ビュフェ美術館所蔵
A PAINTER WHO DEPICTED HIS SOUL INTO SCRATCHED LINE

神経を突き刺すような黒い描線と、現実と非現実の間を漂うような、鈍い色彩に覆われた画面。ベルナール・ビュフェは、第二次世界大戦後、混迷する時代の閉塞感と不安を可視化したともいえる画風を確立し、20歳を目前にして、一躍世界の画壇の寵児となりました。

わが国でも、1960年代以降の安保闘争や学生運動が激化した時代に、その虚無的なイメージは熱狂的に受け入れられ、街頭や喫茶店の一角にも掲げられたビュフェ作品を、目にすることがある方も多いと思います。その後もビュフェは、抽象表現へと突き進む美術の新しい動向に追随することなく、独自の具象表現を貫き続けました。しかしそのことで、通俗的、商業主義的と世間から批判を受け、次第に美術界から距離を置くようになりました。

本展では、これまで美術の歴史の中で語られることがなかったビュフェ作品を改めて問い直し、ピカソに並ぶ巨匠として再評価の機運にある、彼の視線の中にあつた真実(リアル)を探りたいと思います。

出品作品は、世界で唯一のベルナール・ビュフェ美術館(静岡県長泉町)の所蔵作品から、彼が慈しみ描いた昆虫や静物のかたちを中心に、油彩、版画、資料ほか約60点を精選して紹介します。

開催概要

開催期間：2025年10月4日(土) — 12月14日(日)

休館日：月曜日、10/14(火)、11/4(火)、11/25(火)

*ただし10/13(月・祝)、11/3(月・祝)、11/24(月・振替休日)は開館

開館時間：10時 — 17時(入館は16時30分まで)

*10/17(金)、10/31(金)、11/14(金)の夜間開館日は19時30分まで開館(入館は19時まで)

入館料：一般1,600(1,400)円、高大生800(600)円、小中生400(200)円

* () 内は前売り・20名以上の団体料金

前売券：6月28日(土)から10月3日(金)まで

中之島香雪美術館(窓口、オンラインチケット)、
フェスティバルホール・チケットセンター(※10時~18時)、
主要プレイガイド、コンビニエンスストア、
チケットぴあ(Pコード：687-302)、ローソンチケット(Lコード：55381)

主催：公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

協力：ベルナール・ビュフェ美術館



《私のサーカス》1968年 リトグラフ/紙、ベルナール・ビュフェ美術館蔵

「気をつけたまえ。ビュッフェの静物は、

死んでいるのは見かけだけで、いつ噛みついてくるかわからない。」

ジャン・コクトー Jean Cocteau, *Poésie Critique*, Gallimard, 1959

見どころ

❖ 鋭い直線で描く独特なスタイル

ビュッフェの初期の作品には、第二次世界大戦で不条理と虚無感を抱えた全ての人々の心が、むき出しに表現されていました。ビュッフェは、鋭利な直線で描く強固な具象絵画のスタイルを貫き続け、生涯、特定の流派や運動に属することはありませんでした。



《コトドリのある静物》1952年 油彩／キャンバス、静岡新聞社蔵

❖ 夢中で描き続けた「昆虫」「動物」たちを紹介

19歳のデビューでいきなり大成功を収め、名声を受け止める準備もないままに凄まじいほどの賞賛の嵐と成功に包まれたビュッフェ。文学者や演劇界とのコラボレーションを次々と手がける一方で、アトリエに閉じこもり、ただひたすらに描きたいものだけを追い求めて、子供の頃から夢中だった昆虫や静物の形を描き続けました。

❖ ビュッフェの阪急三番街シンボル・モニュメントの「原画」を初公開！

日本には通算7回来日し、大阪にも縁の深い作品を多く残しています。歌舞伎シリーズの大作「暫（しばらく）」を大阪松竹座に納め、NYタイムズスクエア中央に掲げられたサントリーウイスキーの広告塔を描き（1989年）、大阪梅田・阪急三番街フレッシュアップ（リニューアル）オープンのシンボル・モニュメント※とロゴの制作（1990年）も手掛けています。

※蝶・花・果実は、それぞれ「情報」「アート」「サービス」を表わす。



《蝶、サクランボとスマイル》1990年 水彩／紙、阪急電鉄蔵



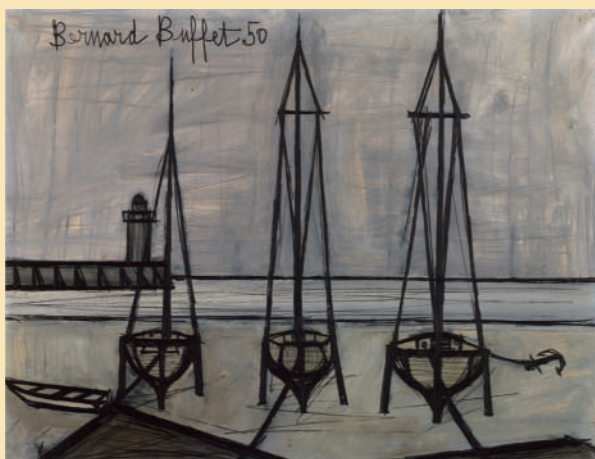
ベルナール・ビュッフェ Bernard Buffet (1928-1999)

1928年パリ生まれ。若干19歳にして批評家賞を受賞して脚光を浴び、その後も国内外での展覧会の成功や、レジオン・ド・ヌール勲章受章、フランス芸術アカデミー会員に選出されるなど、名誉ある画業をたどる。しかし病のために制作が困難になり、99年に自ら生涯を閉じた。享年71。

Bernard Buffet chez Constant, rue de Seine en 1948, © Donation Denise Colomb, Ministère de la Culture (France), Médiathèque du patrimoine et de la photographie, diffusion RMN-GP

第1章 成功への道のり ～時代の寵児へ

1928年、フランス・パリに生まれたベルナール・ビュフェは、両親はフランス北部出身で、双方ともに軍人だった祖父の影響で厳しい家庭で育ちます。幼い頃より画家になることを夢見た少年は、16歳でパリ国立高等美術学校(エコール・デ・ボザール)に合格し、本格的に絵画を学び始めます。



《三隻の舟》1950年 油彩／キャンバスに紙、静岡新聞社蔵



《パンとコンポート》1949年 油彩／キャンバス、ベルナール・ビュフェ美術館蔵

1947年、初個展において、時代の閉塞感と不安とを可視化したともいえるビュフェ独自の表現は批評家たちの注目を集め、翌年には、若手画家の登竜門である「批評家賞」を受賞します。さらには、画廊と専属契約を結ぶなど、20歳になったばかりのビュフェは、20世紀を担う新進気鋭の画家として、一躍画壇の寵児となりました。

「『絵画』とは語ったり分析したりするものではなく、感じるものです」

「悪口の一斉射撃なんかには僕は描くことを邪魔されはしない。」

僕には愚者の信念があり、それを誇りにしている。」

ベルナール・ビュフェ、*Les Oiseaux par Bernard Buffet*, ART et STYLE 54, 1964

第2章 出会った人々



©Blanche Buffet

有名画家となったビュフェは、1950年パリの喧騒から逃れるように南仏マノスクにたどり着きます。この頃より、詩人ジャン・コクトー(1889-1963)、哲学者ジャン・ポール・サルトル(1905-1980)らとの交流をとおして、様々な分野の仕事を手掛けるようになります。

1958年には、華やかな文化人が集うパリのサン・ジェルマン・デ・プレ界隈で、モデルや歌手として活躍していたアナベル(1928-2005)と結婚し、ビュフェの作品には穏やかな明るい色合いや、力強く太い直線が現れるようになります。その画風の変化や、成功した芸能人のような生活ぶりに、賛否両論が巻き起こりました。社会的認知度が上がればあがるほど、作品そのものに対する評価は厳しくなっていました。

第3章 大切な主題 ～昆虫と生き物たち～

戦中戦後の貧困や混乱の気配が薄れる中、海外での華々しい成功が続くビュフェの新作は、「時代性や社会性を失った」、「画風が様式化に陥っている」、「商業主義に走って墮落した」と、批判にさらされるようになりました。そのため、ビュフェは外界との接触を避け、アトリエに閉じこもって描くようになります。しかし1960年から80年代にかけて、スタイリッシュなビュフェの画風は、美術ファンのみならず大衆の支持を得て特に海外での成功が続きます。1971年には、戦後の具象絵画画壇を牽引してきたことがフランス政府に評価されて、レジオン・ドヌール勲章の授与やフランス芸術アカデミー絵画部門の会員に推挙(1974年)されるなど、その画業が公に認められる名誉を授かりました。



《博物館：赤いカミキリムシ》1963年 油彩／キャンパス、静岡新聞社蔵

第4章 作品との対話



《アトリエに座る男》1949年 油彩／キャンパス、ベルナール・ビュフェ美術館蔵

早い時期からビュフェは、初期作品との比較や、その後の世界的な成功など、折に触れてピカソと比較されることが多くありました。しかし、ピカソが各時代において作品を変化させたことに対して、ビュフェが既に20歳という若さで確立した、黒い直線と画面の中に特徴的にサインを配置する絵画スタイルは、ビュフェ芸術の不動の基盤となりました。1997年、パーキンソン病を発症したビュフェは、体力が衰え心身が衰弱していく中で、翌年に発表予定の「死」のシリーズを完成後、筆を置き、1999年10月4日、自らの人生に幕を下ろしました。

2016年、パリ市立近代美術館とモンマルトル美術館でビュフェの大規模な回顧展が開催され、ただひたむきに絵画に取り組むことに生涯をささげたその画業に、前時代の偏見や先入観を取り除いた検討がなされ、改めて再評価の気運が高まっています。

ベルナール・ビュフェ美術館について

ベルナール・ビュフェ美術館は、戦後の具象画壇を代表するフランスの画家ベルナール・ビュフェの作品を収蔵・展示するために、実業家岡野喜一郎(1917-1995)によって1973年に創設されました。収蔵作品数は油彩画、水彩画、素描、版画、挿画本、ポスター等あわせて2000点を超え、世界一のビュフェコレクションを誇っています。

〒411-0931 静岡県長泉町東野クレマチスの丘 515-57

TEL : (055)986-1300 FAX : (055)987-5511

休館日 毎週水・木曜日(祝日は開館し、金曜を休館)、年末年始

<https://www.buffet-museum.jp/>



撮影：山本糾

関連イベント

◆ 記念講演会

ビュフェはなぜ嫌われたのか——批評史における「これまで」と「いま」

講師：小針由紀隆氏（ベルナール・ビュフェ美術館館長）

日時：10月11日（土）14時～15時30分

会場：中之島会館（中之島香雪美術館隣）

参加料：500円（展覧会観覧には別途入館料が必要）

定員：280名（事前申し込み・先着順）

受付開始：7月27日（日）から

※状況により中止の可能性があります

講演会
ご応募はこちらから



◆ ナイトギャラリートーク

夜間特別開館の日は17時から当館学芸員が作品について解説します！

日時：10月17日（金）、10月31日（金）、11月14日（金）

いずれもギャラリートークは17時から（30分程度）、閉館は19時30分（入館は19時まで）。

場所：展示室内にて

参加料：無料 ※入館料が必要です。

◆ こども無料 DAY

この日程に限り小学生～大学生まで入館無料！（保護者は有料です）

この日はおはなしも、笑うのも、泣くのもOK！※ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

開催日：11月1日～11月3日（月・祝）

※学生証をご提示ください



中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4

中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階

TEL:06-6210-3766

◎Osaka Metro四つ橋線「肥後橋」駅4号出口、京阪中之島線「渡辺橋」駅12号出口直結◎JR「大阪」駅桜橋口より徒歩約15分◎Osaka Metro御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」駅7号出口より徒歩約8分◎JR東西線「北新地」駅11-5出口より徒歩約8分

広報用画像一覧



1



2



3



4



5



6



7

- 1 ベルナール・ビュフェ《コトドリのある静物》1952年 油彩／キャンバス、静岡新聞社蔵
- 2 ベルナール・ビュフェ《三隻の舟》1950年 油彩／キャンバスに紙、静岡新聞社蔵
- 3 ベルナール・ビュフェ《アトリエに座る男》1949年 油彩／キャンバス、ベルナール・ビュフェ美術館蔵
- 4 ベルナール・ビュフェ《博物館：赤いカミキリムシ》1963年 油彩／キャンバス、静岡新聞社蔵
- 5 ベルナール・ビュフェ《蝶、サクランボとスミレ》1990年 水彩／紙、阪急電鉄蔵
- 6 ベルナール・ビュフェ《パンとコンポート》1949年 油彩／キャンバス、ベルナール・ビュフェ美術館蔵
- 7 ベルナール・ビュフェ《私のサーカス》1968年 リトグラフ／紙、ベルナール・ビュフェ美術館蔵

広報用写真申込書

FAX：06-6210-4190 MAIL：n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp

ご希望の画像番号

掲載予定日

御社名

(ご担当者名)

貴媒体・番組名

〒 -

ご住所

TEL

FAX

E-mail

読者招待券

☐希望する（5組10枚）

☐希望しない

備考

【画像使用に際してのご注意】

- ・企画書など概要がわかる書類の提出をお願いします。
- ・原稿および記事については、確認のため、掲載前に広報担当宛にお送りください。
- ・掲載・放送後は、掲載誌等の送付をお願いします。
- ・ご使用の際は、必ず作者名、作品名、所蔵元、**© Bernard Buffet Estate** を記載してください。
- ・サイズは、(web 掲載用) 長辺 1000px 100dpi (紙媒体用) 長辺 1000px 300dpi まで。
- ・作品画像は、全図で使用してください。部分使用やトリミング、作品に文字やほかのイメージを重ねることはできません。可能であれば、コピーガードのご対応をお願いします。
- ・作品画像のご使用は、本展の告知を目的とした記事、番組に限ります。また、本展終了後の掲載、放送は原則としてご容赦願います。
- ・本展終了後の掲載は、ご自身による著作権使用許諾申請（有料）が必要となります。